

市外研修 in ふじみ野市

当日の行程Ⅰ：上福岡駅(東口)「徒歩」→①上福岡歴史民俗資料館→②長宮氷川神社



資料館では、学芸員の橋本様から、エントランスに設置されている旧日本陸軍兵器工廠の模型の説明を受けました。戦後、その空き地上に上福岡団地が建設されたこと、当時は、約8千人の人が働いていたなど、ふじみ野市の近代の歴史には驚きでした。また、館内に常設されている古代から近世までの歴史として、権現山遺跡の話、祭事用の穴あき土器「高坏(たかつき)」の話、新河岸川舟運の話、箒職人の匠の技を見聞しました。志木のまち案内人からは、ふじみ野市には富士塚はあるのか質問が出され、所在する神社名や丸藤講の説明をしていただきました。資料館発行の資料を購入し館外へ出て長宮氷川神社に向かいました。

長宮氷川神社では、縁起や何故「長宮社」なのかの説明、奉納されている絵馬、合祀された神社の説明を受けました。初詣客で賑わう姿を見ながら、長閑な住宅地をぬけ、廻漕問屋福田家の墓地がある西養寺へ向かい、鉄製の観音像を拝観し、県史跡の「権現山古墳群」を案内されました。徳川家康が鷹狩りに来たとき、この塚で休憩をしたところから権現山という名がつけられたとのこと。昭和60年代から発掘調査が行われ、現在11基の古墳が確認されているそうです。墳墓形式は、前方後方墳。古墳時代初期に造られ、祭事専用の土器が発見されたそうです。



行程Ⅱ ③西養寺→④権現山古墳群→⑤福岡河岸記念館



次に案内されたのは、新河岸川右岸を見ながら、川越地域とを結ぶ養老橋や、福岡河岸廻漕問屋吉野家の土蔵の説明を受け、福岡河岸記念館に着きました。記念館の案内人に歓待され、母屋前庭で「義人・茂兵衛地蔵」の話聞き、廻漕問屋「福田屋」母屋へ入り、問屋の様子を見学しました。生活の中心だった二階座敷では風情を感じ、剣豪の「書」や貴重な木造三階建「離れ」を見学しました。ステンドグラスの窓、近江八景の彫刻つき障子、新都心を眺めながら黒檀の床柱に感動、幅広の裏板に驚き、60度の急階段の恐怖など建物の豪華さを味わってきました。書庫では、東上鉄道の古い時刻表に興味津々。トイレドアの透かし彫りにも唖然。床の間の「春峰」の掛軸は当時のものだったのでしょうか？名残はつきねど、最後に参加者全員で「イチ・ニ」の写真を撮り、カレンダーのお土産をもらい帰還の途につきました。

行程Ⅲ ⑥福岡中央公園(工場跡地)→上福岡駅

帰りの道すがら、珍しい掲示物を発見しました。右写真の「ハケ」という漢字を見つけました。辞書にない漢字であり、赤は水の出る、崩れる所と伝承されてきました。その場所を見てませんが、川との段差が10m位ある、崖がある？志木市の地名「ハケ」の漢字はどんなつくりなのでしょう？この地域では、何年か前、字名廃止の動きのなか、反対を表明した自治会として取り上げられた新聞記事を思い出しながら解散地の駅まで歩きました。疲れが出ましたので駅前であっという間に休憩。麦芽飲料のおいしさ、忘れられません！

